

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1 階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17 時



まついさつき 9 歳

＜表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています＞

あおぞらの表紙の絵を描いてみませんか？興味があればご連絡ください。

①絵のタイトル ②絵の説明（30 字程度）③掲載するお名前 ④学年（年齢）⑤保護者の方の連絡先（氏名・メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたは FAX にてお送りください。

＜編集委員募集のお知らせ＞

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

＜発送作業のボランティア募集＞

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

5 月 10 日便の予定			5 月 25 日便の予定			お問合せ・お申込み
封入作業	5 月 9 日（火）	午後	封入作業	5 月 23 日（火）	午後	愛知県被災者支援センター TEL：052-954-6722（渡邊）
発送作業	5 月 10 日（水）	午前	発送作業	5 月 24 日（水）	午前	

新年度スタッフ紹介

今年度の愛知県被災者支援センターは、下記のメンバーで運営します。
よろしくお願いします。



栗田 暢之



織田 元樹



南里 幸



向井 忍



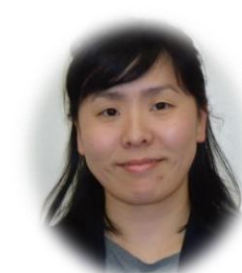
戸村 京子



石黒 学



森本 佳奈



渡邊 いくみ



榊原 春香



柿田 佳邦



浜田 ゆう



塗師 千賀子



佐原 恵津子

届け愛の声

私は名古屋の東海テレビでアナウンサーとして18年勤めた後、現在はフリーアナウンサー、四半世紀以上この仕事を東海地方でしています。高校まで育った仙台を離れて見知らぬ地。最初は、名古屋弁が嫌い、赤みそが馴染めない、一人ぼっち、などなど辛い気持ちを抱えていたなあと思います。でも今では、この仕事続けることができた大事な場所。大勢の仲間ができ、仕事の繋がりを持ち、結婚をし、家を持ち、生活できていることに心から感謝したいです。

そんな私は「声」の仕事はずっとしている訳で、朗読ステージを主宰しています。震災のあった2011年の12月に東北出身の局アナを集め「～チーム東北届け愛の声～」を開催しました。実は東海地方の現役局アナには東北出身者が多いのです。CBCの大石アナ、加藤アナ、東海テレビの小田島アナ、メ～テレの星アナ。みんな大活躍しています。これぞ東北根性！と私は感じます。

今年も3月12日に、名古屋駅前の大垣共立銀行さんのハーモニープラザで、第6回の東北支援朗読会を行いました。局を超えての催しは第1回、2回のみ特例で行い、今では第1回の朗読ステージに参加してくれたフリーのメンバーを中心に構成した「朗読女子 LUCE」という団体で活動しています。



毎回、私は東北弁で物語を朗読します。今年は岩手県遠野市に伝わる民話「お月お星」を読みました。これは異母姉妹のお話で、東北の春の様子や姉妹の忍耐強い生き方が描かれています。初の試みとして、アート書家のゆかさん（岐阜在住）にアート書をライブで添えていただきました。とても素敵な「お月お星」になりました。

朗読の後は、第1回からご縁のある気仙沼の「すがとよ酒店」から購入した美味しい地酒と、懐かしい東北のお菓子を振る舞いました。お越しくださった皆様からは、「東北を想う時間ができて良かった」「きれいな気持ちになれました」などの感想をいただき、いい時間を一緒に過ごせました。

私はこの「声」の仕事、活動を通して多くの繋がりをこの地でいただきました。これからもがんばって、愛の声を届けて参ります。



QRコード

「朗読女子 LUCE」

roudoku-luce.com

(フリーアナウンサー 稲葉寿美 (宮城県仙台市出身))

6 年を振り返って

3 月 11 日と 12 日、同じ会場で開催された 2 日間のそれぞれ違う内容のイベント「アースデイいわき 2017 in 小牧山」が無事に終了しました。

ここ数年 3 月 11 日が近づいてくると、この日をどう過ごせば良いのか？どこでどう迎えれば良いのか？例年、疑問が増しておりました。

「3 月 11 日だけはそっとしておいてほしい」

いわき市から小牧市に自主避難してからずっと、私自身が言い続けていたことです。その私が、なぜこの日イベントを開催するに至ったのか？県外避難者の住宅提供打ち切りを訴えるため？そうではありません。

すでに 1 年半前に県営住宅を出て、同じ小牧市内に居を構えました。借金はこさえました、住む場所を家族の意思で確定したことで安堵しました。いわきに帰るのか？こまきに残るのか？自主避難者という名札をぶらさげてからは毎日が葛藤でした。震災後は自分だけ避難したことを非難し、引きこもりのような生活になりました。そこから脱することができたのは、「福島に帰らないでくれ！と愛知の人に引き留められるくらい恩返しをしてから福島に帰ってこい！」という、いわきの仲間からの励ましがあったからです。

あれが好き！と言えば、あれは嫌い！と人は言い、それをやる！と言えば、そりゃいかん！と人は言う。

ここに住む！と言えば、ここじゃだめ！



と人は言う。

今考えれば、答えもでないそんな無責任な他人の言葉より、もっと自分の言葉を愛してあげるべきだったと思います。

あれが好きと思ったら、とことん突き詰めていい！

それをやると決めたら、それをやりゃあいい！

ここが良いと感じたら、ここに住めばいい！

たったこれだけのことに気づくのに、私は 6 年もかかりました。「過去を振り返ることも大切だけど、今を必死に生きること。今があるから未来につながる。過去を振り返ったら、次は未来を向いて創造する人生にしたい！生きていこう！」そんなメッセージを、この 2 日間に凝縮したつもりです。

3 月 11 日にイベントを企画するなんて不謹慎かもしれないと何度も葛藤しましたが、そこに集う人々の想いが、迷いをきれいに消してくれました。

阪神・淡路大震災から 5 年を過ぎた頃から自殺者が増えたという話を聞いていました。希望や夢がなければ人は生きる気力すら無くしてしまいます。命の灯を自分で消すことほど悲しいことはありません。毎日の当たり前は、実は奇跡の連続だと感じています。

故郷「こまき」から故郷「いわき」へ、想像以上に最高の舞台になりました♪

（アースデイいわき実行委員長 インディアン吉田）

支援団体紹介（原発事故損害賠償愛知弁護団）

当弁護団は、平成 23 年 8 月に国が原発事故の賠償基準となる中間指針を公表し、その内容では被災者の十分な救済ができないであろうと考え、被災者支援のために同年 9 月に結成しました。

以後、賠償に関する説明会、交流会への参加、ADR※¹ 申立のお手伝い等をしつつ、平成 25 年 6 月に第 1 次訴訟を名古屋地方裁判所に提起し、以後 4 次訴訟まで提訴しました。原告※² には岐阜県や静岡県へ避難されている方も加わっています。

先行していた群馬弁護団の訴訟※³ の判決が本年 3 月にありました。事故に対する東京電力と国の実質的過失を認め、東京電力も国も同等の責任を負うとした点は大変評価できますが、賠償額が中間指針を超えて認定をされた方もいれば中間指針を超えないとされた方もあり、いずれにしても低額に過ぎる内容でした。当然、国と東京電力は控訴※⁴ しましたので、東京高裁に場所が移されての攻防になります。

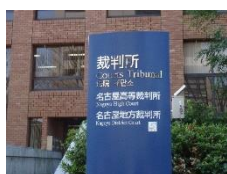


＜朝日新聞（朝刊）2017 年 3 月 18 日 1 面＞

愛知の訴訟は、1 審の判決までまだかなりの時間を要します。最終的に判決が確定するまでは、さらに数年の期間がかかると思います。避難された方々、帰還を余儀なくされた方々、それぞれの精神的苦痛を裁判所に分からせるために、いろいろ知恵を絞って戦っていかなければなりません。

ぜひ傍聴においでいただき、息の長い応援をお願いします。

（事務局長 澤健二）



※¹ 「Alternative（代替的）」「Dispute（紛争）」「Resolution（解決）」の頭文字をとって「ADR」です。日本語では、代替的紛争解決手続とか、裁判外紛争解決手続と訳されます。公益社団法人民間総合調停センター（2009）「ADR とは？」，[online] http://minkanchotei.or.jp/about_adr.html（参照 2017-4-7）。

※² 民事訴訟および行政事件訴訟においてその名で裁判所に対して訴えを提起した者の呼称。コトバンク（2014）「原告とは」，[online] <https://kotobank.jp/word/%E5%8E%9F%E5%91%8A-60456%E5%A4%A7%E8%BE%9E%E6%9E%97%20%E7%AC%AC%E4%B8%89%E7%89%88>（参照 2017-4-7）。

※³ 紛争の当事者以外の第三者を関与させ、その判断を仰ぐことで紛争を解決すること、またはそのための手続のことである。Wikipedia（2016）「訴訟」，[online] <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A8%B4%E8%A8%9F>（参照 2017-4-7）。

※⁴ 第一審の判決に対して不服がある場合に、上級の裁判所に対してその判決の確定を遮断して新たな判決を求める不服申立てをいう。Wikipedia（2017）「控訴」，[online] <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8E%A7%E8%A8%B4>（参照 2017-4-7）。

防災施設インタビュー（愛知県防災教育センター）

「愛知県防災教育センター」は尾張旭市の林間部にあり、消防士の新人研修施設と併設されています。元消防士の坂本さん・飯谷さんから話を伺いました。

防災講話「まず身を守ろう」

火を消し、ドアを開け避難路を確保、机の下にもぐる。そんな基本の対応も、震度7の大地震では困難になります。「その場で頭を保護し、身を低くし、できれば机の下にもぐる。まずケガをしないこと。オフィスでは照明の落下や重いコピー機などが危険。山間部では落石に注意。沿岸部ではしばらく高台に避難する」といった教訓を、視聴覚教材を参考に学びました。日頃から「今ここで地震がきたら」とイメージし対応を考えることが大切で、自分たちでできる備えがたくさんあります。たとえば、建物の耐震補強や家具の転倒防止、窓ガラスの飛散防止フィルム、消火器の設置、非常持ち出し袋・食料・水の準備や避難経路の確認、家族との打ち合わせ、地域での防災訓練など。「地震への備えにやりすぎはない。震災国に暮らしていることを忘れないで」という、坂本さんの力強いひとことが心に残りました。

日本有数の設備で体験、熊本震度7

和洋の二室を備えた起震室は、日本全国でも珍しいそうです。関東大震災や東日本

大震災などの揺れを再現することができます。今回は「熊本地震の震度7、最初の2分間」を体験しました。立ってはいられずテーブルにもぐったり、座布団をかぶってうずくまったりの長い長い2分間。ガス台からヤカンが吹っ飛び、タンス（転倒防止・引き出しストッパーつき）の上からぬいぐるみが降ってきました。

リアルな煙道体験・本気の消火器訓練

屋外に設けられた「煙道体験」ルート。白煙（訓練用の水蒸気）が充満する暗闇を、身を低くし、口元を布で覆い、壁づたいに手で前方確認しながら出口まで進みます。煙は炎より早く広がるため、火災の煙が白いうちに下方向・横方向に逃げることで、火災現場には戻らないことなど、命を守る大切な教訓を学びました。

煙道室を出てから行う屋外での「消火器の実地体験」は、火災の恐ろしさを学んだ後だけに真剣そのもの。「ピンを抜き、ノズルを向け、レバーを握る」という基本の動作を手ほどきしていただき、消火器で放水。「火事だ！」と叫ぶ練習も。近隣への「とっさの大声」がとても大切だそうです。



＜起震室の説明をする坂本さん＞



＜煙道室の説明をする飯谷さん＞

愛知県防災教育センターの坂本さん・飯谷さん、温かなご指導を本当に有難うございました。今回、防災についてリアルに考える貴重な体験や学びの機会に恵まれ、幸運な取材でした。

（あおぞら編集委員 中村友恵）



お出かけ情報

～商店街 第6弾～ 街歩き編



愛知県では、商店街への関心を高めより多くの方に商店街を利用していただくため、県内商店街のイベント等の取り組みを紹介する冊子を作成して公開しています。その中から一部を紹介します。



PICK UP

笠寺観音商店街

場 所： 名古屋市南区笠寺町西之門始め

アクセス： 名鉄名古屋本線「本笠寺駅」

連絡先： 笠寺観音商店街振興組合（052-822-0885）



笠寺音楽フェス（絵 佐田保）

笠寺観音 六の市（絵 佐田保）

笠寺観音商店街は、名鉄本笠寺駅から尾張四観音のひとつ笠寺観音に続く旧東海道界隈にあります。最も賑わいを見せる節分のほか、“六の市”が立ち、遠方からも多くの方が訪れます。この日にお参りすると九万九千回の御利益があると言われる8月9日には、懐かしさいっぱいの夏祭りも開催されます。

そんな歴史や下町情緒を残す笠寺にあって、商店街とまちづくりを共に進める市民の集まりが「かんでら monzen 亭」です。文化、環境、福祉など幅広い分野のイベントや事業を通じて「楽しく暮らしやすい笠寺」を目指しています。つなぐ・つながる笠寺に、遊びに来ませんか！

<愛知県内の商店街>

No	商店街名	沿革	取組み
①	日比野商店街（熱田区） （地下鉄「日比野駅」すぐ）	平成19年に名古屋学院大学のキャンパスが日比野に開校したことが、商学連携によるさまざまな取組みの契機となりました。	ひびの逸品グルメ…「食をテーマにしたグルメ逸品」の商品開発・認定を行い、その逸品をチラシや広告で発表することで、商店街への注目度アップに貢献しています。グルメ逸品以外にも、物販店やサービス店の逸品の商品開発も実施し、成果を上げています。
②	築地口商店街（港区） （地下鉄「築地口駅」東）	大正から昭和初期に名古屋港の整備と共に発展しました。元々は港湾労働者のための公設市場から始まった小規模な商店街ですが、生鮮食品はもちろん、幅広いジャンルの店舗が集まっていて利便性が高いです。	つきじ逸品…①築地らしさ②優れた商品③オリジナル性の3つの条件を元に商品を審査し、条件をクリアした品物に「つきじ逸品」の認定が与えられます。商店街だからこそ、専門店だからこそできる逸品は、素朴でも本当に良い品物を消費者に届けようという店主のこだわりが詰まっています。
③	一宮市本町商店街（JR「尾張一宮駅」・名鉄「一宮駅」徒歩6分）	真清田神社の門前町とし発展し、古くから繊維産業とともに栄えてきました。門前町として、昭和46年には全蓋式のアーケードが設置され、全国にその名を知られています。	一宮七夕まつり…三大七夕に数えられる歴史と伝統ある七夕まつりは、真清田神社の摂社・服織神社への織物の奉納を行う、地域に根ざした祭りです。小中学校がそれぞれの七夕飾りをするなど、積極的に市民が参加しています。イベント等に趣向を凝らしており、訪れるたびに楽しめます。

●詳しい情報は各施設のホームページ等をお調べください。上記の情報は愛知県が発行した「あいちの商店街」という冊子をもとに作成しました。詳しい情報は右のQRコードからご確認ください。



ボランティアスタッフ紹介 ～ 瀧川裕康さん ～

支援センターのボランティアスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。
第10回は瀧川裕康さんです。

ちょうど2年ほど前から体調が思わしくなく、休みがちでした。不本意な毎日でしたが、スタッフの皆さんに励まされて、あしかけ6年間もの長い間こんな名誉あるお仕事に携わることができ、真に光栄でした。とても心残りですが、今年の3月末（昨年度末）をもちまして職を辞することになりました。したがってこの『あおぞら』4月号が届くころにはスタッフではなく、ボランティアとしてセンターに関わっています。ボランティアなのでわずかなことしかできませんが、残された人生を自分の生活も楽しみながら、皆様と交流できたら嬉しく思います。

避難者の皆様、そしてセンターの皆様には、どなたも心身ともに健康に、そして安らかな日々が待っていることを心から祈念します。



支援センターからのお知らせ

<編集後記>

- ★いわきの庭に蔦の蔓が顔を出しました。自然の営みは、何もなかったかのように続きます。この春も支援センター存続に感謝しております。(E.K)
- ★リテールマーケティング（販売士）3級を取りました。買い物の時に疑問に思っていたことが解決しました。(J.I)
- ★外出が楽しみな季節になりました。山の辺での山菜探し、海では春告げ魚メバルの意外に強い引き…自然のありがたさを確認したいですね。(H.I)
- ★入社から1年、ようやく研修期間を終えた娘の笑顔にエールを送りたいこの頃です。(T.N)
- ★「白モクレン」が満開です。いつもこれが終わるころに「ソメイヨシノ」が咲き誇ります。その次は「つつじ」が待ち遠しい。春の花には代えがたい存在感がありますね。(H.T)
- ★町の避難解除を前に自宅の様子を見るために帰ってきます。復興はどこへベクトルが向いていくのか分かりませんが、福島海風に吹かれてこようと思います。(Y.S)
- ★ご招待いただいたレゴランドに親子で行ってきました。想像していた以上にレゴでできた建物やオブジェが素晴らしかったです。園内で会った避難者さん方と一緒に乗り物に乗ったりして子どもも喜んでいました。夢のような1日をありがとうございました。(Y.Y)
- ★愛知県に6年間避難されていた方たちが帰還され、引っ越し荷物は片付いたのか、自宅で落ち着きを取り戻されたか、地元での生活再建もまだまだ大変なことだろうと案ずる一方、こちらで親しんだお顔が見られず、淋しさも…(K.T)

- 5月のイベントの詳細は定期便に同封のチラシをご覧ください。
皆様のご参加をお待ちしております。

あおぞらに関する
ご意見ご感想はこちら

〒460-0001
名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎1階
愛知県被災者支援センター
TEL: 052-954-6722 FAX: 052-954-6993
Mail: aozora@aichi-shien.net

